



千葉労働運動

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号 (動力車会館)

電話 (鉄電) 千葉 2935・2939 番
(公) 043 (222) 7207 番

96.11.14 No. 4499

全力で、12月ダイ改ー 組織破壊攻撃粉碎の闘い!

十二月ダイ改は、組織破壊攻撃と一体の攻撃だ。背後には、JR総連・革マルの「国労(動力千葉)解体」方針がある。十二月ダイ改闘争は、いよいよ山場に入ろうとしている。恒常的なストライキ体制を堅持・強化して、十二月ダイ改ー組織破壊攻撃を粉碎しよう。

露骨な脱退工作

組織破壊攻撃

この間、十二月ダイ改以降の要員配置を想定した異動が次々と行なわれている。この異動の過程で、国労組合員に対する当局ーJR東労組・革マル一体となつた露骨な脱退工作事件が相次いでいる。

例えば、千葉運転区から習志野運輸区に転動した運転士も、事前通知がでる一カ月前から異動の話が職場全体に伝わっていた。フタを開けて見れば、当局のある人物を通して、脱退を条件とした転動の話が個別に進められていたのである。また、習志野車掌区から千葉運輸区へ転動した車掌も同じである。「国労解体方針」のモデル職場に指定されたと言われている京

葉運輸区では、助役による国労組合員へ脱退工作が日常的に半ば公然と行なわれている。

そればかりではない。異動の人選全体がJR東労組の意向や組織対策によつて行なわれているのだ。こんなことが続けられるならば、われわれは、いつでも反撃に立ちあがる決意である。そもそも、この間ダイ改のたびの館山運輸区縮小攻撃自体が、JR東労組と結託した組織破壊攻撃であることは明らかだ。あるいは、十二月ダイ改で鴨川運輸区はプラス四名の所要員数増となるが、これをにらんだ要員操配は未だ行なわれていない。

われわれは、旧勝浦運輸区所属者以外の要員充当は断じて認めない。十二月ダイ改闘争に全力で決起しよう。

団体交渉本番!

また、十二月ダイ改は、分割・民営化攻撃強行以来のJR総連・革マルと結託した異様な労務政策の矛盾が、いよいよ噴き出したダイ改であるとも言える。例えば、習志野運輸区に約六〇〇キロの総武緩行線業務を戻そうとしていることなど、その典型だ。動力千葉破壊のためにのみ、東京への業務移管を続け、

不合理かついびつ極まりない業務分担にしてしまったことが、もはや持ちこたえることができなくなつてしまつていっているのだ。

さらに言えば、ダイ改の提案そのものがボロボロ状態だ。十一月十一日に休日ダイヤの提示があつたが、何と、それと一緒にでてきたのは、すでに提案されていた部分の訂正の山である。列番が間違つていたり、動力監視時間が間違つていたり、出勤・退区時間や労働時間、拘束時間の間違つていたり、何十箇所もだ。一体どうなつてしまつていっているのか、と言う他ない。JR総連・革マルと結託して、動力千葉や国労潰しばかりやってきたツケが完全に回つてしまつていっているのだ。

恒常的スト体制

を堅持し反撃へ

十二月ダイ改の諸要求をめぐる団体交渉がいよいよ本格的に始まる。交渉日程は次のとおりである。全支部から怒りを集中し、十二月ダイ改ー組織破壊攻撃を粉碎しよう。要求や意見をドシドシ支部や本部に集中しよう。

矛盾の噴出!

われわれは、十二月ダイ改を、危機にたつ当局ー革マル結託体制を打倒し、奪われた労働条件と権利を奪い返す新たな出発点にする決意だ。JR体制は、あらゆる面から揺ぎ始めている。十年が巡つて、いよいよ正念場が来た。十年間積もり積もった悔しき、怒りに決着をつける闘いが始つた。最大の焦点は、当局と一体となつた、JR総連・革マルの卑劣な「国労解体方針」粉碎することだ。

恒常的なストライキ体制を堅持して反撃に起とう。いついかなるときでもストライキに起る組織体制を強化し、十二月ダイ改ー組織破壊攻撃を粉碎しよう!

ダイ改交渉日程

	22日	20日	15日
10時	京葉	千葉	館山
14時	木更津	鴨川	全体
16時	津田沼	銚子	全体